

令和元年6月

一橋大学

平成31年度一橋大学外国学校出身者入試学力試験

出題の意図等 【小論文】

## 1. 問題文全体について

社会的養護にある「子どもの最善の利益」を図るために、里親制度に支援が行われてきたが、必ずしも里親養育が成功してきたとはいえない。そこで、里親支援の背景とそこから生じた里親制度の問題点を理解し、その改善策を検討する。

## 2. 問1

筆者が問題文中で「普通の家庭」をどのような意味で用いているのか説明を求めるものである。里親制度の改革過程においては、里親養育の優位性の一つとして、特定の大人との愛着関係を築くことのできる事が挙げられてきたが、それを築くことのできる場として念頭に置かれてきたものであり、近代家族をイメージした家庭、具体的には、法律婚・事実婚関係にある父母や親族がいるような家庭である旨を説明することが求められる。

## 3. 問2

里親支援の正当化根拠として考えられてきた、里親支援の拡充が子供の支援、子供の利益につながるという発想が必ずしも正しくなかった旨を説明する。具体例として、筆者は障害者養育の例を挙げているが、里親養育にもあてはまりうる事が前提とされている。

## 4. 問3

問題文前半では、筆者が問題文中で挙げている、里親制度のメリットとして考えられてきたこと、及び里親支援の結果明らかになってきたデメリット等を参考にしながら整理することが求められる。

問題文後半では、これらを踏まえつつ、さらには、家族そのものにはリスクもあり、普通の家庭の優位性を強調する家族主義にとらわれず、子供の利益になるよう、里親養育の課題の克服を検討していくべきであるという筆者の見解なども参考にしつつ、里親制度の改善策や代替策を考え、説得的に論ずることが求められる。